

「令和元年度 新任（保育士・保育教諭・職員）研修会」 報告書

【期 日】 令和元年5月23日(木)

【会 場】 アバンセ

【主 催】 佐賀県保育会

【参加者数】 101名

【内 容】 研修1 10:00～「基調報告」講師：指山健次郎(佐賀県保育会会長)

研修2 10:30～12:00「うまれてきてくれてありがとう」mon氏(子育てシンガー)

研修3 13:00～16:00「思いを伝える話し方」講師：副田ひろみ氏(フリーアナウンサー)



研修1 「基調報告」 講師：指山 健次郎（佐賀県保育会会長）

1、保育を取り巻く状況

- ・女性就業率(女性の就業率は上がっている、これからも上がっていくと思われる)
- ・待機児童等の状況(待機児童のほとんどが1、2歳児 佐賀県は4月現在33名)

保育士不足

- ・保育士確保は課題
- ・保育士等キャリアアップの仕組み
- ・保育人材の確保に向けた総合的な対策(新規資格取得支援・就業継続支援・離職者の再就職支援)
- 幼児教育・保育の無償化（10月から3・4・5歳児は無償化が決定している）

2、新任保育士の方々へ

- 1、挨拶・笑顔・元気
- 2、時間を守る
- 3、失敗を恐れない
- 4、自分をアピールする
- 5、給料をいただくという意味



研修2 「うまれてきてくれてありがとう」 講師：mon氏(子育てシンガー)

♪は歌



♪短い愛の歌

・子供の頃の話

Mon氏は韓国人の在日3世、6人兄弟の末っ子、父母が仕事のため、生後1か月から就学前まで祖母と2人暮らし、就学に伴い家族の元へ戻るが、韓国語しか話せない、祖母と会えないで、いつも寂しい思いをしていた。思いついたことを思いついた時にしないと気が済まず、先生からはとよく怒られ、たまに叩かれていた。落ち着きがなく、いじめもあり、学校が嫌いだった。

♪ハッピーハッピーバースデー ♪宝物

・としみつきょうこ先生の話(3, 4年生担任)

教室の隅で歌わせてくれたり、落書きを素敵なお絵だと掲示板に貼ってくれる。人前での表現が好きだからと帰りの会の時間をくれ、帰りの会で表現することにより、授業中は少しずつ我慢ができるようになっていった。また、周りの子ども「うるさい」「気持ち悪い」と言っていた子が「どうやるの?」「もう一回して」と変わってきた。子どもの世界って子どもだけで作っているのではなく、大人(先生)がかかわることで、こんなに変わるのか、大人(先生)の力ってすごいと思う。勝手にしゃべる口が嫌いだったが、先生が、「あなたの口から出るものは芸術でいっぱいね、楽しいわね」と褒めてくれた。しゃべる、歌うが今では仕事になっている。良いところを見つけて、褒めて、叱って、根っこを育ててほしい。

♪本当はね

・特徴の話

子どものときは文字嫌い、見たいところを見ることができない(大人になって ADHD・HSC とわかる)先生が、みんなの前で音読してみたら?と提案してくれたことがきっかけで、段々本が好きになる。同じ目線で、一緒に考え、頑張ってくれたら、苦手なことも好きになるかもしれない、苦手な好きが隠れていることもある。

♪本の虫

・ばあちゃんの話

夜は親が仕事のため、子どもだけで過ごしており、とにかく大人に甘えたかった。小学4年生の時、近所の一人暮らしのばあちゃんを訪ねて行き、仲良くなり、4人のおばあさんに甘えていた。その4人の名前は知らないが、一人ひとりの臭い、部屋の様子、話したことなど今でも、全部覚えている。

♪てのひら

・兄姉の話

小さいときは大嫌いだったが、大人になったら好きになった。病気で姉が亡くなる。病床の姉に「やせたな、うらやましいわ」と心にもないことを言ってしまい、今も後悔している。後悔のない一日を過ごしてほしい、もし、自分の命の終わりを知ったら誰の顔が浮かぶ?どんな日を過ごす?普段言えていない伝えたい言葉を、その人に次会えた時言ってみる、電話してみる、手紙を出してみるのもいいのではないかな。

♪日めくりカレンダー

日めくりカレンダーは、毎日破かずまとめて破るとききれいに破けない、その後もそこが邪魔してきれいに破けない、日々の幸せも一緒だと思う、まとめてから、後ではいけない、自分の心を大事に。

これから先、こんな言葉をかければよかった、こんなこともできたのではないかな、選択が間違っていたのではないかと、後悔することもあるかもしれないが、全部愛だし、子ども達にも伝わっている。たくさん子ども達とかかわるのではなく、深く深く、いっぱいかかわることで子どもは根っこに残している。

居場所とは、その人がやりたいことをやれる場ではなく、その人の良いところ、悪いところを全部受け入れてくれることが本人にわかる、それが居場所

♪祈りの歌



- ・読んでみましょう(拗音を含む言葉) 読みにくい(発音しにくい)言葉のプロの裏技、小さな「ゆ」がくる言葉は直音で発音してもいい(例：ゆしゅつ→ゆしつ) 小学校でもフリガナ自体が十本(じっぽん)になっている。
- ・長音化(連母音)二重母音、は長く引っ張って発音する(例：えいがかん→えーがかん)
- ・風 東君平 (読み語り・読み聞かせ)
読み聞かせをする時、声のテンポ、声のトーンを変えてみると効果的(低音は重厚な感じがするなど)
口頭で説明するよりも絵本が良い、絵本は疑似体験ができる。(いもむし列車：虫苦手・ありのアチチ：熱さ・ぷくちゃんのすてきなパンツ：オムツ外し)
小さい子が何度も、同じ絵本を読んでとせがむのはなぜ？子どもは絵本の内容だけではなく、絵を読んでいる、毎回焦点を合わせる場所が違うため。
- ・話し方(コミュニケーション)について
「人間関係が壊れるときは内容よりも伝え方」「人間関係は感情関係」相手の感情を傷つけない配慮が必要。
本当のコミュニケーションとは、自分の話したいことは言いながらも、相手の感情を傷つけない言い方をすること。人は頭でわかっているとしても感情で行動するものである。
会話には「内容」と「感情」が含まれている、まず相手の感情を理解し、共感を示した後、内容に対処する。
例：「p cの調子が悪く、仕事にならない、早く来てほしい」←「それはお困りですね、すぐに伺います」
- ・言葉の意味はひとつではない
言葉どおりの意味を指すもの「デノテーション」、状況などによって、言葉に含まれた別の意味を指すものを「コノテーション」という。人が発する言葉にはいくつもの意味が含まれていて、読み解く力が必要。
- ・聞き手を傷つけない話し方とは？
Iメッセージ：私は～の言い回しが受け入れられやすい。なるべく具体的に伝える
YOUメッセージ：あなたが主語だと、相手が自分を責められたような感じがする
例「なんだ、この靴の脱ぎ方は！揃えることもできないのか」→「靴をそろえてくれたら嬉しいな」
- ・リフレーミング 出来事が変わらなくても、言い方を変えれば受け止め方も変わってくる。
例：あきっぱい→好奇心旺盛 わがまま→自分の意見を持っている
- ・物事の見方をガラリと変える「ABC理論」の秘密 ①出来事→②信念→③結果
①の出来事をどのように解釈するかで、③の結果が異なってくる。
例：デートをすっぽかされた。②が自尊心を傷つけられたとなる人は③は怒りになり、②で寛容な人は③が許すになる。
- ・聞く能力を高める「あいづち」のいろいろ(話し上手は聞き出し上手)
聞き上手は、あいづち上手である。声に出す、ジェスチャーでする、いずれも的確にあいづちをすると、話し手の意欲はかき立てられて、より話に熱が入る。

- ・奈良少年刑務所詩集 「空が青いから白をえらんだのです」「父と母から教わったこと」
親類、ご近所、学校など、親以外の大人と触れ合える場所があれば、救われる子もいる。
- ・クッション言葉(マジックフレーズ)を使いこなそう
内容を単刀直入に届けるよりも、内容の前にクッション言葉を入れると、感じがよくなる。
例：何の用ですか？→おそれいりますが、どのようなご用件でしょうか？

◎報告

自身の経験からくる伝えたい思いが、とても強く心に響いてきた。

大人のかかわりで、子どもの姿が変わること、大人との出会いが、その子の人生を変えることを改めて感じ
根っこを育てることの大切さを教えてもらった。

また、言葉は気持ちを伝えるのにとっても大切だが、気づかないうちに言葉で相手を傷つけたり、誤解をまねいたり
することもあることを教えてもらった。

わかりやすい事例をあげて、クッション言葉や、ABC 理論で、より良いコミュニケーション方法を具体的に話
され、保育士としてだけでなく、社会人としても役立つ研修となった。

(文責：ひまわり保育園 秋月真知子)